

埼玉大学 学生員 林 博基

埼玉大学 正 員 窪田陽一

埼玉大学 正 員 久保田尚

1. はじめに

ボンエルフなどの住民に身近な道路においては、それを使いこむ中で課題が抽出されることも多く¹⁾、またその効果の継続性には、利用者の慣れが大きく影響すると考えられる。本研究の目的は、利用者（住民）がボンエルフに対して慣れた後にボンエルフの評価を行なう事により、ボンエルフが地区の中で効果の継続性をもつかどうかを検討することである。

2. 調査概要

調査対象道路は低層棟と高層棟からなる浦安市入船西エースト内の低層棟内に、昭和62年4月にボンエルフが導入された延長150m、幅員7.5mの団地内道路である。調査は供用開始2年後の平成元年の初夏より秋にかけて、ビデオ撮影による自動車の速度調査、住民へのアンケート（対象は主婦）等を行った。

3. 自動車の速度の変化からの検討

まず図1の速度の変化を見てみると、供用直後と2年後における平均速度の変化は殆ど見られないが、ボンエルフ化によって低速で走行していた自動車の速度が2年経つと高くなった傾向が見られる。しかしボンエルフ化されたにもかかわらず速く走行していた自動車では、逆にその速度は落ちる傾向が見られる。低速走行車の速度が高くなったことはまさに慣れによるものと考えられ、逆に速く走っていた自動車の速度が下がる傾向は、その速度では走り難い事がわかってきたため無理なく走れる速度まで落とすようになった結果と考えられる。

さらに、図2は住民からみた自動車の速度の感じ方を調査した結果であるが、全体的に速くないと感じる回答が多い。沿道の自動車非保有層は両極端の評価を示している。

4. 歩行者や団地住民としての評価

図3は、ボンエルフの目的の1つである、「安全にのびのびと歩けることが実現されている

と思うか」という質問の結果である。全体的に、そう思う人より思わない人の方が多く、特に沿道住民の評価が低い。歩行者や団地住民としてみた場合に、このように自動車の速度は低いと認識していながらも、必ずしも歩行者が安全にのびのび歩けるという認識を持つまでは到達していないように考えられる。

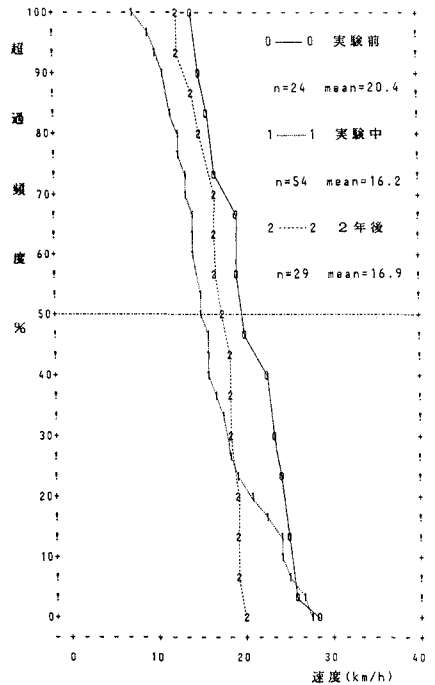


図1 速度の変化

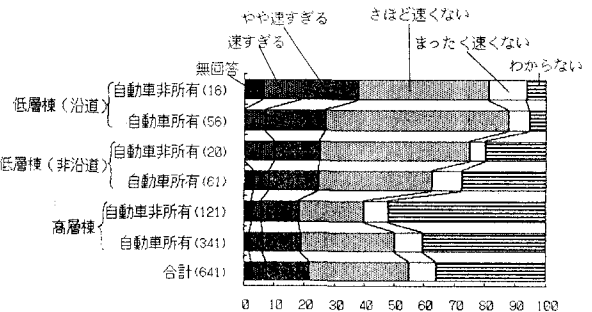


図2 速度の評価

5. 自動車の走行性からの検討

図4は自動車所有者に、道路の走りやすさを聞いたものである。多くの人（回答者の66.9%）がゆっくり走行すれば運転は困難ではないというように指摘している。

6. 不法駐車からの評価

ボンエルフの目的の1つとして不法駐車は排除があげられるが、今回の調査でもボンエルフ内での不法駐車は殆ど発見されず、効果の継続性が確認された。

7. ボンエルフへの改造の評価の変化

今回の調査（ボンエルフ導入の是非）と、導入前、実験導入中、および本格的導入の可否を問うた調査結果を（事前の調査と今回のアンケートの質問内容が一致しないので注意が必要である）比較したのが図5である。事前、実験開始直後、および実験開始後半年の評価を比較すると、ボンエルフに対する評価が着実に増加している。一方、半年後と2年後の今回とを比較すると、今回は、ボンエルフに対する反対は少なくなっているものの、手放しで評価する層は多くない。ボンエルフの導入は、「他の代替案よりはましであった」というような苦しい選択であったとも読み取れる。

8. まとめ

以上のように、不法駐車抑制効果や自動車の速度抑制効果は続いており、さらに自動車の走りやすさについても

低速で走行すれば問題がほとんど発生していないことがわかった。このように、ボンエルフの効果は一応、継続していると考えられる。しかし、歩行者がのびのびと安全に歩けるところまで実現していると思っている住民は少なく、ボンエルフへの総合的な評価も必ずしも高くない。

ボンエルフは、安全、利便性、そして快適性などを同時に達成することをもくろんで誕生した。一方、それらを同時に達成することは、裏返せばそれらの各々を少しずつ我慢しなければならぬことであり、このことが住民の判断に大きく影響しているものとみられる。ボンエルフの評価のしかたそのものが問われているといえよう。

参考文献：1)中野、山本、久保田、新谷(1988)「地区交通改善における実験的アプローチの有効性」、日本都市計画学会学術研究論文集第23号、pp.373-378

2)「自動車社会における住宅団地の地区交通計画」（道路経済研究所、昭和63年2月）

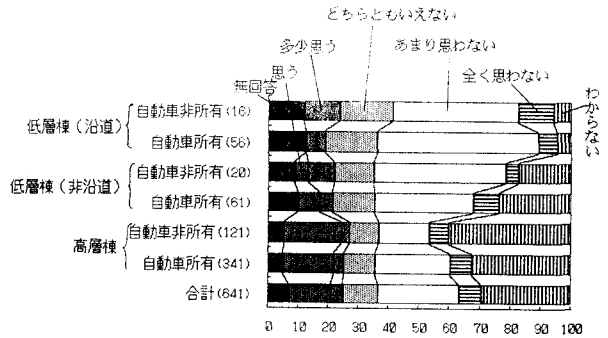


図3 「のびのびと安全な道路であると思うか」の意識

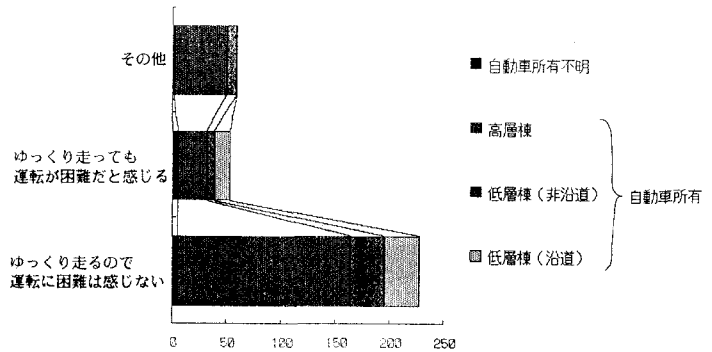


図4 ボンエルフの運転しやすさ

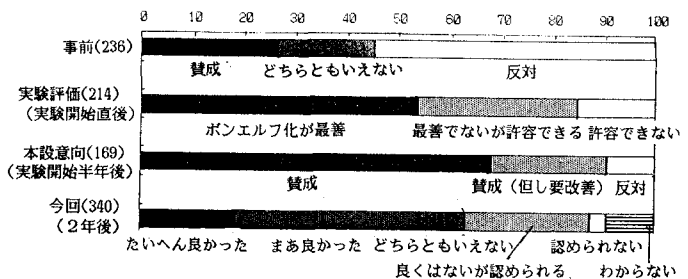


図5 沿道住民のボンエルフの評価とその変化